

第 26 回京都府看護学会 開催要領

テーマ「物語で紡ぐ看護の魅力～私たちの看護を語ろう～」

1. 目的

私達看護職は、様々な機会に経験豊富な先輩の看護体験を聴き、その看護観に触れることで、自分自身の看護をみつめ、ステップアップのきっかけを得てきたのではないだろうか。しかし医療の高度化、複雑化や勤務体制の多様化などから、以前のようにゆっくり看護を語り合う機会が失われ、また新型コロナウイルス感染症の拡大は、職場を離れて仲間同士が集い、語り合うという大切な機会をも奪ってしまったように思われる。

地域包括ケアやタスクシフトなどの視点から、看護職の専門性への期待が高くなる一方で、業務の多重化や人間関係のストレスなどから、退職する同士の増え、加速する少子化により生産人口が減少し、未来の看護職を確保することも困難となっているのが現状である。

ナラティブとは語り手自身が紡いでいく物語である。看護職は誰もが様々な看護の対象や対象を取り巻く多くの方と出会うなかで、看護のすばらしさ、命の尊さを実感してきた。

今回さまざまな立場の看護職のナラティブを京都から発信することで、改めて看護の魅力を多くの仲間たちに知ってもらい、京都で看護を続けて行こう、また看護職を目指している若者たちにも「京都でナースなろう」と決心するきっかけになるよう今回の学会を企画した。

2. 開催日時：令和 6 年 1 月 27 日（土）10:00～16:00

3. 開催方法：集合開催

4. 開催場所：京都市北文化会館（地下鉄北大路駅 キタオオジタウン内）

5. 参加対象：看護職 高校生・看護学生 その他医療従事者

6. 開催内容：

1) 演題発表 17 演題（口演・示説）

2) 特別講演 13:00～14:30（90 分）

テーマ「ケアする者の物語、ケアされる者の物語～ナラティブと看護」

講師：宮坂 道夫 新潟大学医学部保健学科 教授

3) シンポジウム 14:40～15:25

テーマ「私の看護に影響を与えた出逢い」発表 15 分×3 人（45 分）

シンポジスト

① 木下 淳 フットケアサロン綾 オーナー（糖尿病看護認定看護師）

② 藤野 早苗 京都第一赤十字病院 看護係長（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）

③ 奥田 裕紀子 伏見岡本病院 看護部主任（緩和ケア認定看護師）

15:25～16:00

宮坂道夫先生を交えて意見交換（35 分）